



オリンピック銅メダリスト箱山愛香さんによる夢の教室

本市では、2012年からJFA日本サッカー協会による「夢の教室（こころのプロジェク）」を行っています。

JFAのホームページによると、『JFAこころのプロジェク』は、子どもの心身の健全な成長に寄与することを目的に取り組んでいる活動で、Jリーガーやなでしこジャパン、日本代表として活躍している新旧選手が『夢先生』として小学校の教壇に立ち、『フェアプレー精神』や『夢を持つことの素晴らしさ』、『それに向かって努力することの大切さ』、『失敗や挫折に負けない心の強さ』を子どもたちに伝えています。」と記されています。

7月4日（火）、本校にお越しいただいた夢先生は、箱山愛香さんです。



＜主な経歴＞

小学校2年生のときに、シンクロナイズドスイミングを始める。
2010年 FINAシンクロワールドカップ日本代表
2012年 ロンドンオリンピック出場。チーム5位入賞。
2016年 リオデジャネイロオリンピック出場。チーム3位。銅メダル獲得

＜1時間目：ゲームの時間＞

夢先生と5年生の初対面は、体育館で。「ゆめせんせい！」と子供たちが呼ぶと、「はい！」とアーティスティックスイミング（以下、AS）の表現をしながら登場してくれました。1つめのゲームは個人でのゲーム。2つめのゲームはクラスみんなの気持ちと動きが1つになっていないとクリアすることができないゲーム。全員が手をつないで横一列になり、アシスタントの方の手からボールが離れている間だけ、前進できるというルールです。簡単そうに思えても、なかなかうまくいきません。途中、夢先生を中心に円陣を組み、作戦タイムです。「手からボールが離れたら、誰かが『GO!』って言えば？」「走らないで歩いたほうがいいんじゃない？」「隣の人と同じ速さで進もうよ。」たくさんの意見が出てきました。

夢先生から、「いちばんになるうという気持ちも大切。でも『みんなで』やろうという気持ちも大切。」と教えていただきました。



＜2時間目：トークの時間＞



なぜASを始めようと思ったのか。メダリストになるまで、どんな苦難があったのか。その苦難を乗り越え、自分の支えになったものは何なのか。一番の原動力は、ASが「好き」という気持ち。しかし、「好き」になるためには、「好き」になるための下支えが必要です。夢先生は、誰よりも早くプールに行き、誰よりも多く練習をし、起きてから寝るまでずっとASのことを考えていたそうです。そうするうちに、できなかったことができるようになり、できることが増えていき、「好き」が膨らんでいったとおっしゃっていました。

☆夢先生が伝えたい3つのこと☆

- 1 「明確な」夢や目標をもつこと
☆大会に出ることが目標なのか、大会に出て優勝することが目標なのか。その違いで、その後が大きく変わる。
- 2 自分の周りの人や環境に感謝すること
☆人は1人で生きているわけではない。そのことに気付いてほしい。
- 3 「好き」をたくさん見つけること
☆「好き」の中から夢や目標を見つけよう。

子供たちは「夢シート」を書きました。将来の夢を書くこと・言葉にすることで、夢に向かう子供たちを後押ししてくれます。この後、夢先生は1人1人の「夢シート」を読み、メッセージを書いてくれるそうです。楽しみですね♪



「今できることから始めてみます！」「私もがんばる人になりたいです！」「夢をかなえることで親孝行をしたい。」「今日のこと、一生忘れない。」「子供たちの気持ちと行動を変えるきっかけとなる2時間でした。」